

広島市植物公園 見どころ案内

ススキ (イネ科)

日本全国に分布し、秋の七草のひとつにも数えられています。かつてはチガヤやスゲなどと纏められて「茅(かや)」とも呼ばれ、屋根の材料や家畜の餌に使用されていました。十五夜で飾ったり、諺に使われたりと、身近な植物のひとつです。

秋咲きバラ (バラ科)

秋バラが見頃です。春に比べて花の数は少なくなりますが、花の色が濃くなり、香りも強くなる傾向があります。また、気温も低いので長い間バラを楽しむことができます。

ネリネ (ヒガンバナ科)

南アフリカ原産でヒガンバナに似た花を咲かせます。花弁に光沢があることから「ダイヤモンドリリー」との別名もあります。開花期が長く、1か月近く咲いているので、切り花やフラワーアレンジメントによく利用されています。

キク展

キク(家菊)は中国原産の植物で、漢字の読みが「キク」と言う音読みしかありません。

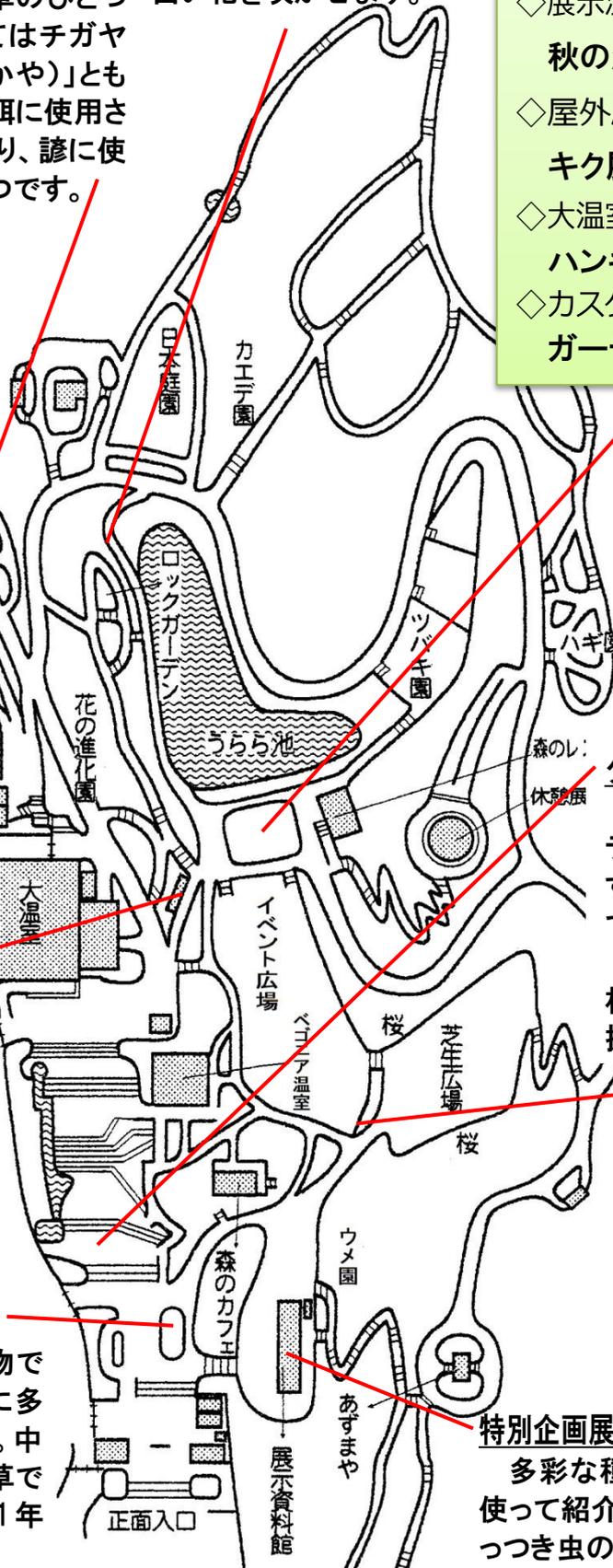
キク展では広島市の友好都市である重慶市から寄贈された中国菊の展示を行っています。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。和名はモヨウビユ。中～南米原産で、現地では多年草ですが、霜に当たると枯れるので1年草扱いをします。

コウヤボウキ (キク科)

キク科の植物では珍しい木本性の植物です。高野山で茎を束ねて簞にしていたことからこの名前が付けました。オケラに似た白い花を咲かせます。



展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (10/19～12/24)
特別企画 種子の不思議展
- ◇展示温室 (10/26～11/4)
秋の洋ラン展
- ◇屋外展示場 (10/26～11/10)
キク展
- ◇大温室前 (10/26～11/4)
ハンギングバスケット作品展
- ◇カスケード (10/26～11/4)
ガーデニングコンテスト作品展

コスモス (キク科)

メキシコ原産の一年草で、日本には明治初期に本格的に広まりました。明治後期には全国に普及し、現在では秋を代表する花の一つになっています。花の迷路ではピンク、白、マゼンタ等の花が満開です。

ダリア (キク科)

花が牡丹に似ているので、テンジクボタンとも呼ばれます。メキシコの高原地帯の原産で、夏の暑さは苦手です。

地下部はサツマイモ様の塊根ですが、耐寒性はなく花後に掘りあげが必要です。

子福桜 (バラ科)

秋～春の厳冬期を除いて断続的に八重咲の花を咲かせます。花一輪に果実が複数着くことからこの名前が付けられました。近くには、十月桜や三波川冬桜も花を咲かせています。

特別企画展 種子の不思議展

多彩な種子の秘密を実物やパネルを使って紹介します。種子が飛ぶ様子やひつつき虫のダーツなどが体験できます。